



不従順な息子が自分の受け継ぎを求め、家を出ます。

息子は父から与えられたものをすべて楽しいことに浪費します。

飢饉が襲い、息子は豚にえさをやる仕事をします。

ほうとうむすこ 放蕩息子

ある日、家に帰って助けを求めることができることに気づきます。

家に帰ると、自分はもう父親の息子として扱われるに値しないと思い、家族の召し使いにしてくれるよう頼みます。

たとえの意味

放蕩息子は、天の御父に背いたときのわたしたちを表しています。しかし、どこに行ったか、何をしたかにかかわらず、天の御父はわたしたちが御自分のもとに、そしてイエス・キリストの福音のもとに戻って来ることを望んでおられます。

わたしたちは完全である必要はありません。ただ、後悔してへりくだり、キリストのもとに来て、悔い改めなければなりません。神はわたしたちに栄光をまとわせて、わたしたちの真の価値を示してくださるでしょう。

しかし、父親は放蕩息子を赦し、息子として迎え入れ、家族は息子が帰ってきたことを祝います。